

キリシタンの墓

小山牧子
え・石阪春生

村重船長

あらすじ 二年前短期大学を卒業した佳は、母親蘭子との生活に息づ

まりを感じ、米国系海運会社のエイジェントに勤めに出ることにし

た。ある夜ボスのヒギンズ氏とともに訪れた願成寺の墓地のくらがり

に一人の老人がひそりとろづくまっており、その老人はなぜか荒木

村重という不運な武将と、彼にゆかりをもつキリシタンの遺跡にひど

く執着していた。ある日佳は遠く離れている父からの便りを読んだあ

と、その孤独な老人の顔が佳の胸を去らず、再び願成寺の老人を訪ね

る。村重船長とよばれるこの老人の部屋を何気なく見わたしている

と、佳は飾り台の上のすでに褐色に色をかえた写真に目をとめた。そ

の写真の男は見ものがえようもなく、若い頃の佳の父、村林裕作であっ

た。

古い一葉の写真を、彫像のようになに動かぬ姿勢で凝視する佳に、老人は柔軟なまなざしを注ぎながらいった。

「私の娘と息子ですのじや」

「あなたの息子……？」

が、娘と並ぶ若い男は、まさしく佳の父、若い日の村林裕作ではないか。

「そう……いぶかしいかな？ 娘は血をわけた私の娘でな。その隣りは、私の娘がこの世にある間、まことに清らかな愛をかわしあっていた、つまり娘の許嫁じやつた。

いまからおもうと、私は、実の娘以上にその娘の婚約者

と魂の深奥でつながっていたようにおもうのだが……」

老人の唇のまわりに、ほろ苦い自嘲的な嗤いの皺が刻まれた。

「お嬢さん、なんてお名前だったの？」

たずねながら老人の前に立ちもどり、再び膝をそろえて坐ったとき、佳は、自分の唇が血の氣を失い、かすかに震えているのを意識した。

「ユカ子……」

やがて、娘についての追憶にひたるのがこの上なく楽しいといつたふうに、

「由緒あるというときの由に、人べんに土がふたつ、佳き人の佳を書いて、由佳子と読みましたのじや」

由佳子！ 名前の真中に佳き人の佳、佳、佳！

同じ一字を名前にもつ佳の心は、更に波立った。

波立つ胸の奥で、かってこの寺をおとすれた夜、露路

うちにうずくまっていた易の老婆の黒ずんだ顔が鮮烈に浮きあがる。そして、その露路の上にはりついていた漆黒の空と不吉な赤い星……。

おもえば、占い婆アの「西へ行くな」のひとことに追いたてられ、佳はこの老人と出会い、父裕作の秘密に直面してしまったのである。しかし、悪の世界から繰りだされたかとおもえる宿命の糸にあやつられ、恐ろしい奈落の世界に堕ちてゆく自分の姿を想像し、こわばった表



H. ISHIMAKA

核という病気は、どこか闘病する人間の情念の世界を深めるところがあるのかも知れませんのう。あるいは、單に療養生活につきまとう孤独感をたえがたくおもったから、由佳子は、そのとき以前には数ある私の若い部下

には示したことのない親しげな態度を、村林君に見せま

したのじや。由佳子は、村林君の向上心に燃える青年将

校の風貌に、父親である私と共に通したものを見たのかも

知れぬ。そして、村林君は、由佳子の傷つきやすい純白

の花のような清らかさに魅かれたものと、私はおもいますのじや」

話に引き入れられながらも、佳の心は、なおもおだや

かでない。佳の愛する父が、こんな大切な秘密をかくしもっていたとは……。佳は、父の世界から完全にはじき

だされ、のけ者にされていたのだ。まるで、馬鹿かお人

好し、それでなければ、子供あつかいではないか。

「二人は、よく話しながら高原を散策し、時々は若い二

人が唄うデニエットが、風にのって私が待つ山莊にまで

響いてきたものだった。そのときから、村林君は由佳子

の希望になり、村林君もまた、由佳子を将来の伴侶と決

めたらしかった。海上での忙がしい勤務の明け暮れ、よ

くこれほどマヌにとおもうほど、村林君の便りは由佳子

に届いたし、一方、由佳子の方は病人だ。手紙を書いた

り受取つたりするのだけが楽しみといったふうな暮らし

ぶりでしたのじや」

「最初に発病したのは、十六歳のときじゃった。そのときは丁度、私が岡にあがって暮らせる時期で、私は娘を連れて、信州の高原にゆきましたのじや。小さな山荘に

起き伏して、娘は療養につとめ、私は半年の間、次第に生気をとりもどしてゆく娘を見守って暮らしたものです」

老人の目は、いつか熱っぽく、快樂にふける男のよう

な輝きをおびはじめる。

「村林君が、はじめて私たち父娘を見守ってきたのは、

その高原にいたときだったと記憶しているのじやが。結

「で、その恋はみのらず、娘さんは亡くなられたといふわけなの？」

佳の語調には、追憶にひたる老人の情を断つよう鋭い棘がひそんでいた。

「そうですのじや。再発してからの由佳子の病状は悪くなる一方で、海上生活者である私には駆けつけるいとまもなく、医者と看護婦に看とられただけの淋しい臨終でしたのじや。最後まで、私と村林君の名を呼び続けましたそうで……」

老人の目から、一瞬、快樂の色をおもわせる輝きが消

え、その表情が陰鬱にかけた。と、二人が対座する部屋もまた、老人の表情にふさわしい濃いグレイの日陰の色に染められているのに、佳は気さいた。たぶん、春の陽が、早ばやと天を駆け過ぎ、かけろうが立っていた境内も、西側の民家や門のかげにすっぽりと包まれてしまつているのだろう。

日脚の早さを感じながらも、不機嫌そうに唇を閉じた老人のもとを辞するには、なお問いたださねばならぬことが無数にあるような気がして、佳はその暗鬱な部屋にじっと坐っていた。いま、むつりと黙りこんだ老人に何かと問うことは、厚い鉄の扉を、ハンマーで乱打するときがそうであらうと想像できるほど、たいそうな勇気がいる。ハンマーで打たれた鉄の扉は、天にとどくほどの大音響でがたりたてるに違いない。老人もまた、佳の不用意な質問に、激しい怒声で応じそうな気配がするのだ。が、やはり、佳は問わねばならない。たくさんの問い合わせ拒まるならば、ただ一つ。あと一つだけ……。

「あの……あの、たち入ったことをおたずねするようであ失礼とはおもうのですが、お嬢さんの婚約者のかた、いえ、あの……」

しどろもどろに問う佳の前で、老人の沈んだ表情は、かたくなに動かない。

「ごめんなさい。息子さんとおもつておられる方は、いまだどうしていられるのですか？」

「え？ 村林君のことですかね？」

我にかえった老人の声は、佳の予想に反して、意外と静かであった。

「この神戸に住んでいますよ。私と彼との魂のうちでの骨肉の関係は、いまも続いておりますのじや。感心な息子でな。いつもひと航海を終えて岡にあがつてくると、一番先にこの老人をたずねてくれますのじや。今度は五ヶ月に神戸にもどると、ついこの間、連絡をくれましたがの……」

「まあ……」

低く驚きの声をあげる佳の心の深みから、細い一本の血の筋が流れはじめる。許せない。絶対に許せない。佳は、そのことを自分だけのものと堅く信じ愛していた父裕作の背信とおもい、心のうちでなじった。五月帰港を知らせる父の手紙は、母にさえも見せず、そつと大切にかくしもつてある佳だ。その父が、佳のあざかり知らぬところでこの老人と親子の情を交わしあい、佳によこしたのと同じような手紙を送つていたとは！

この老人もまた、父裕作を所有していたといふことで佳は、この初対面に近い老人を憎むかも知れない。そのためか、佳の語調は、シニカルにとがれていた。

「その方、結婚なさって、しあわせな家庭を作つておられるのでしょうかねえ？」

「さあねえ、しあわせであるかどうか私は知らん……」

と、そこで、老人の暗鬱な表情に一瞬、鋭利な刃がきらめくようなゆがみが走つた。やがて、ゆがんだ表情にふさわしい皮肉な口調で、

「彼の家庭のことにまで立入つたことはありませぬが、私の娘は、いま世にありますたら、女流歌人として、日本で右に並ぶ者がないほどの評価を受けておりましたじやろう。地道な娘でしたが、感受性の強い豊かな情感をもつておりましての……、亡くなつたときは、交友のあつた歌の仲間から、日本の歌壇全体の損失といつて惜しまれたものでしたよ」

いつまでも消えない老人の表情の皮肉なゆがみから、佳は老人が、父裕作の妻である女流歌人蘭子の生活をもぼろげに知り、関心をもつてゐるらしいことを感じとつたのであるが……。

佳は、理不尽な宿命を拒もうとするかのよう、老人の言葉に必死にあがらう。

——嘘だ。この老いぼれ、なにかで、なにかで私たちの一家のことを知つていて、話をつちあげたに過ぎないのだ。パパのことは、もし事実だったにしても、青春にありがちの小さなエピソードに過ぎないので、パパに限



H. 1941.5. 6. 10

「怒りなさるな。私の娘も、私が留守がちだったからか、あなたと同じような顔つきをしておるときがありました。それをおもうと、あわれがよけいかかりましての……。この間の真夜中に異人さんと墓地を歩いておるあんたと話そうとしたのも、そのあんたの顔のかけりのせいでしたのじゃ」「おせつかいなのね。残念ながら、わたし立派な父がおりますの。失礼します！」

立ちあがりながら、端ない言葉の奥に、憎しみと入れまじった老人への甘えがひそんでいることを、佳は意識した。そのせいかどうか、目の玉があつつい。もうしばらくこの部屋にとどまるなら、すべての不機嫌な感情をサヤにおさめ、老人の前でオンオフと泣きはじめるだろう。恥ずかしい。だれがこんな大嘘つきのふうてん老人の前で泣いてやるものか。だれが泣いてやるものか。

「ヒモジそくだなんて変なこという人に、このお花さしあげません」

いうなり、手みやげのバラの花をとりあげ、窓ごしに日ざしがかける境内の空地に投げて。次の瞬間、ひらめくように敏捷な動作で老人の部屋を去り、佳は戸外へ飛びだしていた。

体の中で幾匹もの獸が乱舞している。あの灰色の部屋と老人を白昼夢として、記憶の片すみに閉じこめておきたい。いや、おかねばならぬ。が、佳は、自分が好奇心と探求心の強い娘であることを知っている。この体の中で乱舞する獸を眠らせるることは可能か。否である。

「タクシー！」

佳は、車道に身をのりだすほどに荒っぽい拳手のしかたで車を止め、「一の谷」とゆき先を告げた。

佳が去った寺の境内で、投げ捨てられたバラの花束がじんと冷えていた。(つづく)

「私に秘密にしたロマンスの思い出を終生胸に抱いているなんてことありえないもの。嘘だ。この老人の話は、一部をのぞいてほとんど全部、孤独な自分を慰めるための作り話に過ぎないのだわ——」

佳は、必死にあがらい続ける。が、あがらっても、あがらっても、老人の言葉の確固とした響きのすべてをはね返すことはできない。佳は、わがままに育てられた娘特有の、内部におきた葛藤を不機嫌な猛々しい相であらわにした。と、老人は、そんな佳の表情に気つき、「古いなじみでもない若い娘さんにこんな話、面白くもなかつたのでしょうか？」

「ええ、ちっとも面白くありませんわ」

老人の表情からは、例の皮肉なゆがみは消え、唇のまわりに、年齢よりも老けて見えるしょぼしょぼとしたはにかみの小皺が浮きだした。やがて、老人の佳に注がれるまなざしが暖かくなごみ、

「あんた、お父さんがおりなさらんのでは？」

老人は問うたが、佳はたかぶった気持のまま、

「なぜ？なぜそんな変なことお聞きになるの？」

「ヒモジそうな顔をしておりますの？わたし！」

頭をめがけて、熱い血がいっせいに駆けのぼる。



Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

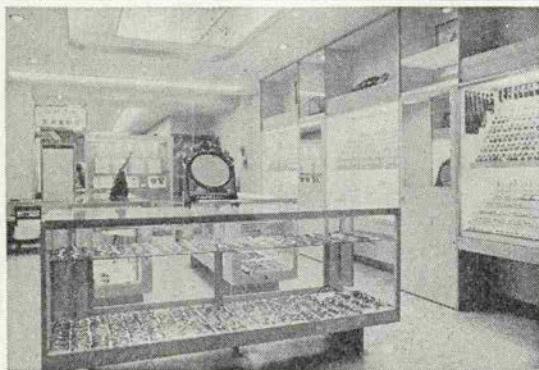
Kent shop
フナキヤ
元町3 TEL <32> 0356



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL (34) 7290



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田籠甲店
元町1丁目 TEL (33) 6195

オリジナル L サイズ

草履新発売

創業明治二十一年
履物の山下
古い老舗に新しいセンス

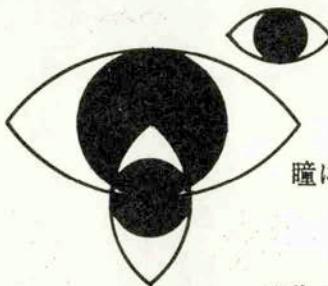
確実正札 完全冷暖房
静かに品選びの出来る店
神戸三宮センター街 TEL (39) 0256

高級紳士服專門店

神戸テーラー



さんちかメンズタウン TEL 39-0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL 33-2817・3173



瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員
国際コンタクトレンズ研究所

神戸市東灘区御幸通八丁目九ノ一（三宮駅前）
神戸国際会館内 TEL (22) 8161・(23) 2570



さんちか店 ファミリー・タウン
三井商店 賃物等一街大洋劇場東隣
元町方面でのお買物へ
元町通 3丁目山側
元町通一丁目不二家前側
バンブー店

おもちゃの



直輸入インテリア・ギフト

サンレコ

神戸国際会館 1 階
TEL (078) 22-9713

やすぱりうまい
むさしのどんかつ

おすん
てんぶら

榮彌

営業時間
A.M.11.30～P.M.9.00

本店 大丸前・三宮神社東

TEL 33-56772 (毎週水曜日休み)

支店 さんちか味のれん街
(第3水曜日休み)
TEL 39-5233

でんわ 32 32 33
100 六三四
六三五

コウベ三宮サシ



スタンド

菴香

桑畠房子

リラックスした
ひとときを……

コウベビル地下
TEL 33-6763



北海道の味を直輸入の店
スナック トナトナ

下山手通1丁目5 ゼウスタウンビル地下
TEL 39-1200

カクテルラウンジ
サヴォイ

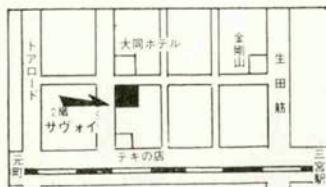
生田区北長狭通2丁目
TEL33-2615

DRINKING



★寒い冬も去り、暖かい春がもうすぐそこまでやってきている。国電沿いの、サンセット通りにあるテキの店を少し北に入った所、ピノキオの北隣り、ケラーの2階に昨秋引越しオープンしたサヴォイはダーク調のシックなインテリアとゆったりとした空間で飲む人の心を柔らかくつづんてしまう。マスターの小林省三さんは昨年、万博の世界カクテルコンクールで金賞を射とめ、その腕のたしかさが楽しめるので洋酒ファンにとっては大変嬉しい。小林さん夫妻やバーテンさんたちの細かい心づかいが店のすみずみまで行き届いており、落着いて気持よく飲める、とファンも多い。スペースの広いボックス席もあるのでグループでも楽しめる。

サヴォイ特製サンド クロックムッシュ ¥300 ビール ¥200
営業時間 P.M.5:00~A.M.12:30 日曜は休みです。



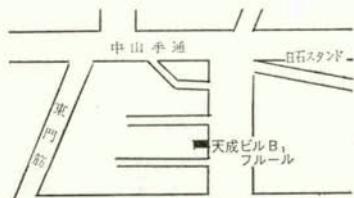
SNACK & DRINK
フルール

生田区中山手通1丁目13
天成ビルB1
TEL39-1366



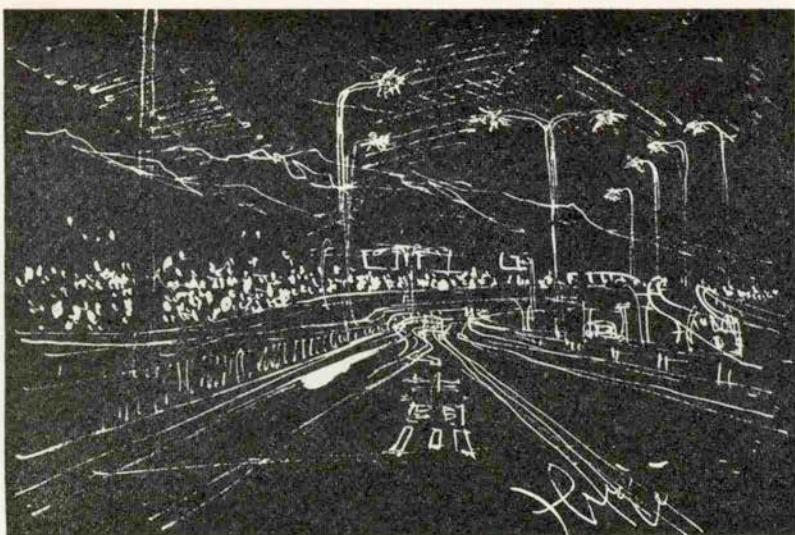
★三月ともなると妙に心がうきうきするものだ。花の香りをいっぱいのせて、春がもうすぐそこまでできているせいかもしれない。昨秋オープンしたばかりのこの“フルール”は今年はじめて春を迎える。花がとっても好きだといママの赤沢れい子さんは、そのやさしい人柄で飲む人の心をしらずしらずのうちに暖かくつづんてしまう。店内にはゆったりとした広いカウンターの他に、ゴージャスなインテリアのボックス席もあり、クラブのように落着いたムードで飲めると好評だ。また気軽に食事もできるので大変重宝がられている。

ビール¥250円 カクテル¥400円 フィーズ¥400円
ステーキ¥1,800円と1,000円 バター焼¥700円 お茶漬¥350円
P.M.6:00~A.M.3:00 第1、第3日曜は休みます。



曲線ハイウェイ

武田繁太郎
え・横塚繁



★あらすじ 浜名湖北岸の小さな岬のうえに建てられた浜名湖サービス・エリアで、多木洋介は艶のある薄い小麦色の肌をした若い神戸の女性、宇津康子を知る。MVハードトップを駆って、ドライブに暮色が美しいはじめた頃、多木は康子とともに館山寺湖畔のホテルに入る。それから十日後、二人は久し振りに浜名湖SAで遙瀬を持ち、朝霧高原で愛を確かめた。身許をあかそろとはしない康子は、その後も十日か半月おきぐらいに、多木にデートの電話をかけてきた。康子の正体を知るために、多木は神戸出身の友だち岡本和彦を訪ねた。岡本はちょっとそこまで行くかのように女友達ルミと多木を誘つて、東名神を神戸に向かった。岡本は浜名湖SAまでノンストップで運転してやっとレストランで一服した。

浜名湖SAでひと休みしてから、終点の西宮ICまで、途中、大津SAでトイレを使ったほかは、岡本は、とうとうノンストップで走りつづけた。

「おれ、交代しなくてもいいな？」

浜名湖SAをでるとき、多木は、いちおう念をおしてみたが、

「いいさ」

岡本は、当然のことのようにうなづいた。

多木は、フォード、ムスタングなどというカッコいいクルマを運転したことはなかった。カーキチの若者なら、このとびきり性能のいい外車を、いちどは自分で乗りましたみたいである。多木にも、その誘惑はありまわしてみたいものである。多木にも、その誘惑はあ

つた。

「もちろん、岡本も、多木の胸中は十分に知っているはずである。だが、彼は黙殺していた。「替ってやろうか」などとは、おくびにもだはしなかった。

こいつはホンモノのドライバーだと、多木は感心した。自分のクルマは、自分が運転する。他人にハンドルはまかせない。これが、ドライバーの守るべき基本的ルールだと、多木は考えていた。

彼は宇津康子とドライブするときは、たがいのクルマを、そのときどきのコースによって、どちらかが運転する。だが、どちらのクルマも、おなじMVハーデトップであり、二人は、いわば一心同体であった。二人とも、他人のクルマに乗っているような気がしなかった。

もちろん、彼も、康子以外の他人のクルマを運転したことにはなかつたが、ドライバー仲間では、気やすくクルマを借りたり貸したりする風習があつた。

「ちょっとクルマを貸してくれないか」などと、クルマを持たないペーパードライバーに無心されると、

「ああ、いいよ」

と、おうとうにキイをわたしてやる。

だが、このなに気ないクルマの貸し借りに、危険な陷阱がかくされていた。他人のクルマで事故をおこす事件があとをたたない。ショッちゅう新聞の社会面をにぎわしていた。

借りたクルマで事故をおこせば、借りた当人はもちろん、貸したクルマの持主まで、責任を追求される。事故がおきてから悔んでも後の祭であった。

貸した本人は、好意のつもりで貸してやったとしても、結果的には、仇になつてかえってくるその好意は、じつはホンモノの好意とはいがたかつた。彼の好意は、軽卒と無責任の別名にはかならなかつた。

たとい借りた相手が、無事にクルマをかえしてきたとしても、しかし、それは彼が偶然事故をおこさなかつた

というだけにすぎない。双方の軽卒と無責任が、それで帳消しになるわけではなかつた。

ほんとうにクルマを愛しているドライバーにとっては、クルマは、彼の恋人か愛妻にひとしいといえる。

「ちょっと奥さんを貸してくれないか」

と、無心されて、

「ああ、いいよ」

と、おうとうに承知する男がいるか。

自分のクルマに、恋人か愛妻ほどの愛情を抱いていないものは、マイカー族の資格はない」と、多木は、いつもそう思つていた。

長距離ドライブは、交代で運転すれば、疲労も少なく、事故も防げると、専門家はいふ。だが、多木は、こういう専門家の言葉にも、反発をおぼえていた。

これでは、ドライバーが自分と組になつたドライバーと交代で、自分の妻を犯すようなものではないか。どれほど長距離ドライブでも、さいごまで自分ひとりで自分のクルマを運転すべきである。途中で疲れれば、クルマをとめて憩えばいい。途中で眠くなれば、クルマをとめて仮眠すればいい。これが、長距離ドライブの最低のルールであった。

いや、長距離ドライブだからといって、疲れたり眠くなつたりするようなドライバーは、さいしょから、長距離のドライブなどとしやれるべきではないのである。

現に、岡本和彦は、東京と青森間七百三〇キロを独走して、なお余力を残していたという。こういうドライバーだけが長距離ドライブをたのしむ資格があるので、えただろう。

多木自身も、クルマの貸し借りは大嫌いであった。それは、好き嫌いという心情の問題であるとともに、モラルの問題でもつた。

彼の大学の仲間にも、ペーパードライバーは大勢いた。なかには、ガールフレンドとのデートに、彼のMVを借りにくるものもいたが、いつも彼は、

「駄目だ」と、言下にはねつた。

「どうしてもドライブしたければ、レンタカーがあるじゃないか。あれでいけよ」と、彼はいってやつた。とりつく島がない。仲間たちは、

「ケチなやつだ」

と、陰口を叩く。だが、彼は意に介さなかつた。彼のこの「ケチ」精神には、ドライバーのルールを厳守しようというきびしさが裏うちされていた。

大津SAをでるところから、ハイウェイにたそがれが舞いおちだしていたが、京都、高槻、茨木と、さいごのコースをいっ氣にとばし、西宮ICについたときには、すかり夜の時刻にはいっていた。

「神戸まで阪神高速ができたので、便利になつたよ」

岡本は、その新しくできたハイウェイにクルマを乗りいれながらいった。万国博の開催にあわせて、このハイウェイは完成したらしい。行手の右側には、六甲の山な

みが、中腹のあたりまで点々と灯をともしたまま西にのび、左手には、くろぐろとした大阪湾が見えかくれしている。山と海とにはさまれたその夜の闇のなかを、ハイウェイは一路神戸に走っていた。

多木には、はじめて接する神戸のたたずまいであつた。彼は、車窓から瞳をこらして、山の手から海にむかつて、なだれるようにひろがっている街々の灯をながめた。

「似ている——」と、彼は思わずつぶやいていた。

彼とよく愛車を駆って、横浜に遊びにでかけていた。彼は、この港町が好きだった。わけても、外人墓地のある山の手から、「港の見える丘公園」、その近くにある元町あたりが、たいそうお気に召していた。その横浜といまはじめで目のあたりにする神戸の印象が、どこか似ているようと思えるのである。

やはり、同じ港町のせいだろうか。横浜には、東京などちがつて、静かで、おちついた、それでいて、いかにも港町らしい、エキゾティックでしゃれたムードがある。その同じムードを、彼は、神戸の第一印象から感じたのである。

多木は、宇津康子の面影を瞼に描いてみた。この町は、たしかに、あの女が住むにふさわしい町だったようにも思える。いや。あの女は、いま、夜の明りがまたたいでいるこの町のどこかにいるので



ある。多木の胸は、ふいに、さざなみがうつようによきめしてきた。

ハイウェイが市内にはいり、やがて、暗い空にひときわ抜きんでた高層ビルのちかくのランプをみると、フォード・ムスキングは、静かなビル街の一角にあるホテルの駐車場にすべりこんでいた。

ここは、多木もその名を知っているOホテルだった。岡本を先頭にして、三人がロビーにはいると、長身の青年がソファから立って一行を出迎えた。

「お帰りなさい。予定どおりのお着きでしたね」青年は岡本に挨拶した。岡本はかるくうなづいてみせた。そういえば、さっき、大津SAで、岡本はどこかに電話をかけていた。神戸のこの青年に連絡して、出迎えさせるためだったのだろう。

「紹介しよう」岡本はいった。
「こっち、うちの社の横井邦夫君。こっち、学校仲間の多木洋介君だ。多木は神戸ははじめてだから、よろしくたのむよ」「そうでしたか。よくいらっしゃいました」横井邦夫は、いんぎんに多木に挨拶した。年は二十五、六歳だろうが、スーツの着こなしがうまい。物腰が

やわらかく、なかなか社交的な感じの青年である。こういうタイプが神戸の青年だというのだろうか。

「さて。ひと休みしたら、どこかへめしを食いでかけよう。多木はなにが食いたい?」

岡本がちょっと意気こむような口調でたずねた。

「肉料理がいいな。コーベビーフ」

多木も遠慮せずにいった。

「よし。じゃ、Kヘビフテキを食いにいこう」

岡本も即座にいった。

多木の部屋は、岡本たちの部屋とならんで、三階にとつてあつた。多木が与えられた部屋にはいつしばらく

すると、ドアがノックされて、横井がはいつてきた。

「おいそぎで、お持ちあわせがないご様子ですが、これをお使い下さい」横井は一万円札を十枚おりたんで、テーブルにおいた。

「東京にお帰りになつてから、精算していただければ結構です。」多木に余計な氣を使わせまいとする、岡本の配慮なのであろう。デリカシイのあるやり方だと、多木は、あらためて岡本和彦という青年に興味と魅力のようなるものをおぼえていた。

(つづく)

＜神戸の催し物 3月ご案内＞

＜音楽＞

★いしだあゆみショー

3月4日(木)
P.M.6:30開演

神戸国際会館
民音 会員券 750円

★ダークダックスリサイタル

3月8日(月)
P.M.6:30開演

神戸国際会館
劳音 会費 900円

★秋吉敏子カルテット

3月9日(火) P.M.7:00開演 神戸国際会館
入場料 S1,800円 A1,500円 B1,200円 C900円

ピアノ・秋吉敏子、テナーサックス・ダバキン、
ベース・マイルク・モア、ドラムスージム・マディソン

★森田健作ショー

3月15日(月) P.M.2:00及び6:30開演 神戸国際会館
民音 会員券 550円

★ベラ・ルデンコリサイタル

3月22日(月) P.M.6:30開演 神戸国際会館
劳音 会費 1,300円

★第10回国際ジョイントリサイタル

3月27日(土) P.M.2:00開演 神戸国際会館
入場料 250円

＜演劇＞

★文学座公演「美しきものの伝説」

3月18日・19日・20日 毎日 6時15分開演 神戸国際会館
劳音 会費 650円

作／宮本研、演出／木村光一

出演／加藤武、川辺久造、薄野忠彦、江守徹、太地喜和子、藤田弓子、吉野敬子他。

＜70神戸市民劇場＞

★大藏流狂言の会

3月3日(水) P.M.6:30開演 神戸国際会館
入場料 A800円 B500円

鞠 猿(うつばざる) 善竹幸四郎、善竹玄三郎他
素抱落(すおおとし) 大藏秀太郎他

首 引(くびひき) 善竹圭五郎、善竹忠一郎他

＜舞踊＞

★グラン・アントニオ「フラメンコ」舞踊団

3月29日(月) P.M.6:30開演 神戸国際会館
民音 会員券 A1,800円 B1,300円

＜美術＞

★春の美術展

2月9日～4月4日 県立近代美術館
開館 A.M.9:30～P.M.5:00(但し入場は4時半まで)
入場料 大人80円、大・高校生60円、小・中学生40円



ベラ・ルデンコ



★前略ご免下さいます。

神戸っ子。いつも楽しみに読みませて頂いております。読みました後は鎌倉におります姉に送っています。

姉は世界中で神戸が一番よいとも思はれて頂いております。読みました後は鎌倉におります姉に送っています。

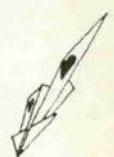
姉は世界中で神戸が一番よいとも思はれて頂いております。読みました後は鎌倉におります姉に送っています。

発行にいろいろお世話をいたいたい方がた

小柏嘉嘉金大小岡岡牛上梗石井石乾砂青荒朝安曾
磯井納納井淵野根崎部尾田並野上野野木木奈部文
良健毅正元ツ一真伊吉将正成左信豊重正ト都衛
平一六治彦ム夫造忠子朗雄一明門一彦仁雄見隆夫

津玉田田田淹淹竹角砂塙新白雀坂阪古後上小小
高井中中村宮川中南田路谷川部口本林藤林林泉林
和健寛孝虎勝清猛重義秀昌千喜末英秀徳芳
一之一操郎二介彦二一都夫民孝雄渥介雄勝樂二一雄一夫

神吉行山若百村宮宮松福深原畠原野南中中西直外竹
戸青年青原吉口杉崎上地崎井富水口沢部西卷脇木島馬
会治哉泰辰正襄辰高芳惣泰專忠幸圭一次二
議所良女弘慧雄郎二雄雄美吉良郎郎三勝弘親郎吉助



以前は年に二、三回程度神戸で入港する各国の艦船を写しにしげしひと通つてゐる内に、すっかり神戸の魅力にとりつかれて、このところ月に三回巡回しています。

美しい緑にかこまれた六甲の山なみ、湖の香ぐわしい神戸港、シャレた地下街さんちカタウン、休日にはカメラをもつてコウベの街をぶらつくのを楽しみにしています。

小さいが宝石の様に美しくシャレた雑誌神戸っ子、昨秋十月本屋の店頭で見付け、まだまだ五冊しか持てていませんが、毎日五冊しか持てない参考として大いに利用させて顶いています。今日もコウベに行き、さんざかタウンでコーヒーを飲み、「ワンダフルな街コウベ写真展」を見て岡山に帰りました。

五月の神戸市民祭、七・九月のワールドフィズ・ユニバースの入場料、一年間もいろいろな街の物や行事をワンダフルな街コウベに写真をうつしに通う予定であります。文末になりますが、貴誌の発展を岡山の地より心から御祈り致します。

二月六日
(岡山市 水川)

御誌の御发展を心から祈り申し上げます。(岡本次郎)

★前略御免下さい。先月号の神戸っ子年玉コロナに応募したところ、トラングローバスのスタイルの美しさが写真賞となりました。厚

い風景写真のカレンダーを送つて頂きました。厚く御礼を申し上げます。

★神戸っ子がついに十周年を迎えます。これも皆さまの暖かいご支援の賜と、心より感謝いたしております。今後ともよろしくお願いいたします。(編集部一同)

★十周年を機に、北から南から日本全国の代表的なタウン誌の編集者の方々に神戸へお集り頂きました。

それぞれの街の雑誌は、やはりそれが風土にふさわしい成長をつづけているようだ。神戸っ子もまた

ます。広告コピーで「春のみを頂いた」といいます。(小泉 康夫)

★西の林田重五郎先生に今月はお休みを頂いて、東の堀谷正造先生に「人肌のタクモリ」という玉藻を頂きました。これから神戸っ子づくしに通う予定であります。

り町づくりなどに懇意です。(小川 康夫)

★ボートアライアンドから眺めた神戸の風景を探し、現場へ行って見ると春にはまだまだ遠く……。それでも春を呼びました。

★月刊神戸っ子を毎月お読みになりたい皆さま、また神戸を離れておりお友達に、神戸の香りをおとどけになりたい方は、編集室あてにお申込下さい。さつそくお送りします。

★月刊神戸っ子をお買求めの時に

は左の本屋さんへどうぞ。神戸の銘店には、お客様までのサービスとして神戸っ子がおかれています。

1年分 一三〇〇円(送料共)
6ヵ月分 六五〇円

★月刊神戸っ子を紹介されている、神戸の銘店には、お客様までのサービスとして神戸っ子がおかれています。



文流洋堂
漢口堂三宮店
新開地本通り
元町通3丁目
元町通5丁目
元町通6丁目
元町通7丁目
元町通8丁目
元町通9丁目
元町通10丁目
元町通11丁目
元町通12丁目
元町通13丁目
元町通14丁目
元町通15丁目
元町通16丁目
元町通17丁目
元町通18丁目
元町通19丁目
元町通20丁目
元町通21丁目
元町通22丁目
元町通23丁目
元町通24丁目
元町通25丁目
元町通26丁目
元町通27丁目
元町通28丁目
元町通29丁目
元町通30丁目
元町通31丁目
元町通32丁目
元町通33丁目
元町通34丁目
元町通35丁目
元町通36丁目
元町通37丁目
元町通38丁目
元町通39丁目
元町通40丁目
元町通41丁目
元町通42丁目
元町通43丁目
元町通44丁目
元町通45丁目
元町通46丁目
元町通47丁目
元町通48丁目
元町通49丁目
元町通50丁目
元町通51丁目
元町通52丁目
元町通53丁目
元町通54丁目
元町通55丁目
元町通56丁目
元町通57丁目
元町通58丁目
元町通59丁目
元町通60丁目
元町通61丁目
元町通62丁目
元町通63丁目
元町通64丁目
元町通65丁目
元町通66丁目
元町通67丁目
元町通68丁目
元町通69丁目
元町通70丁目
元町通71丁目
元町通72丁目
元町通73丁目
元町通74丁目
元町通75丁目
元町通76丁目
元町通77丁目
元町通78丁目
元町通79丁目
元町通80丁目
元町通81丁目
元町通82丁目
元町通83丁目
元町通84丁目
元町通85丁目
元町通86丁目
元町通87丁目
元町通88丁目
元町通89丁目
元町通90丁目
元町通91丁目
元町通92丁目
元町通93丁目
元町通94丁目
元町通95丁目
元町通96丁目
元町通97丁目
元町通98丁目
元町通99丁目
元町通100丁目
元町通101丁目
元町通102丁目
元町通103丁目
元町通104丁目
元町通105丁目
元町通106丁目
元町通107丁目
元町通108丁目
元町通109丁目
元町通110丁目
元町通111丁目
元町通112丁目
元町通113丁目
元町通114丁目
元町通115丁目
元町通116丁目
元町通117丁目
元町通118丁目
元町通119丁目
元町通120丁目
元町通121丁目
元町通122丁目
元町通123丁目
元町通124丁目
元町通125丁目
元町通126丁目
元町通127丁目
元町通128丁目
元町通129丁目
元町通130丁目
元町通131丁目
元町通132丁目
元町通133丁目
元町通134丁目
元町通135丁目
元町通136丁目
元町通137丁目
元町通138丁目
元町通139丁目
元町通140丁目
元町通141丁目
元町通142丁目
元町通143丁目
元町通144丁目
元町通145丁目
元町通146丁目
元町通147丁目
元町通148丁目
元町通149丁目
元町通150丁目
元町通151丁目
元町通152丁目
元町通153丁目
元町通154丁目
元町通155丁目
元町通156丁目
元町通157丁目
元町通158丁目
元町通159丁目
元町通160丁目
元町通161丁目
元町通162丁目
元町通163丁目
元町通164丁目
元町通165丁目
元町通166丁目
元町通167丁目
元町通168丁目
元町通169丁目
元町通170丁目
元町通171丁目
元町通172丁目
元町通173丁目
元町通174丁目
元町通175丁目
元町通176丁目
元町通177丁目
元町通178丁目
元町通179丁目
元町通180丁目
元町通181丁目
元町通182丁目
元町通183丁目
元町通184丁目
元町通185丁目
元町通186丁目
元町通187丁目
元町通188丁目
元町通189丁目
元町通190丁目
元町通191丁目
元町通192丁目
元町通193丁目
元町通194丁目
元町通195丁目
元町通196丁目
元町通197丁目
元町通198丁目
元町通199丁目
元町通200丁目
元町通201丁目
元町通202丁目
元町通203丁目
元町通204丁目
元町通205丁目
元町通206丁目
元町通207丁目
元町通208丁目
元町通209丁目
元町通210丁目
元町通211丁目
元町通212丁目
元町通213丁目
元町通214丁目
元町通215丁目
元町通216丁目
元町通217丁目
元町通218丁目
元町通219丁目
元町通220丁目
元町通221丁目
元町通222丁目
元町通223丁目
元町通224丁目
元町通225丁目
元町通226丁目
元町通227丁目
元町通228丁目
元町通229丁目
元町通230丁目
元町通231丁目
元町通232丁目
元町通233丁目
元町通234丁目
元町通235丁目
元町通236丁目
元町通237丁目
元町通238丁目
元町通239丁目
元町通240丁目
元町通241丁目
元町通242丁目
元町通243丁目
元町通244丁目
元町通245丁目
元町通246丁目
元町通247丁目
元町通248丁目
元町通249丁目
元町通250丁目
元町通251丁目
元町通252丁目
元町通253丁目
元町通254丁目
元町通255丁目
元町通256丁目
元町通257丁目
元町通258丁目
元町通259丁目
元町通260丁目
元町通261丁目
元町通262丁目
元町通263丁目
元町通264丁目
元町通265丁目
元町通266丁目
元町通267丁目
元町通268丁目
元町通269丁目
元町通270丁目
元町通271丁目
元町通272丁目
元町通273丁目
元町通274丁目
元町通275丁目
元町通276丁目
元町通277丁目
元町通278丁目
元町通279丁目
元町通280丁目
元町通281丁目
元町通282丁目
元町通283丁目
元町通284丁目
元町通285丁目
元町通286丁目
元町通287丁目
元町通288丁目
元町通289丁目
元町通290丁目
元町通291丁目
元町通292丁目
元町通293丁目
元町通294丁目
元町通295丁目
元町通296丁目
元町通297丁目
元町通298丁目
元町通299丁目
元町通300丁目
元町通301丁目
元町通302丁目
元町通303丁目
元町通304丁目
元町通305丁目
元町通306丁目
元町通307丁目
元町通308丁目
元町通309丁目
元町通310丁目
元町通311丁目
元町通312丁目
元町通313丁目
元町通314丁目
元町通315丁目
元町通316丁目
元町通317丁目
元町通318丁目
元町通319丁目
元町通320丁目
元町通321丁目
元町通322丁目
元町通323丁目
元町通324丁目
元町通325丁目
元町通326丁目
元町通327丁目
元町通328丁目
元町通329丁目
元町通330丁目
元町通331丁目
元町通332丁目
元町通333丁目
元町通334丁目
元町通335丁目
元町通336丁目
元町通337丁目
元町通338丁目
元町通339丁目
元町通340丁目
元町通341丁目
元町通342丁目
元町通343丁目
元町通344丁目
元町通345丁目
元町通346丁目
元町通347丁目
元町通348丁目
元町通349丁目
元町通350丁目
元町通351丁目
元町通352丁目
元町通353丁目
元町通354丁目
元町通355丁目
元町通356丁目
元町通357丁目
元町通358丁目
元町通359丁目
元町通360丁目
元町通361丁目
元町通362丁目
元町通363丁目
元町通364丁目
元町通365丁目
元町通366丁目
元町通367丁目
元町通368丁目
元町通369丁目
元町通370丁目
元町通371丁目
元町通372丁目
元町通373丁目
元町通374丁目
元町通375丁目
元町通376丁目
元町通377丁目
元町通378丁目
元町通379丁目
元町通380丁目
元町通381丁目
元町通382丁目
元町通383丁目
元町通384丁目
元町通385丁目
元町通386丁目
元町通387丁目
元町通388丁目
元町通389丁目
元町通390丁目
元町通391丁目
元町通392丁目
元町通393丁目
元町通394丁目
元町通395丁目
元町通396丁目
元町通397丁目
元町通398丁目
元町通399丁目
元町通400丁目
元町通401丁目
元町通402丁目
元町通403丁目
元町通404丁目
元町通405丁目
元町通406丁目
元町通407丁目
元町通408丁目
元町通409丁目
元町通410丁目
元町通411丁目
元町通412丁目
元町通413丁目
元町通414丁目
元町通415丁目
元町通416丁目
元町通417丁目
元町通418丁目
元町通419丁目
元町通420丁目
元町通421丁目
元町通422丁目
元町通423丁目
元町通424丁目
元町通425丁目
元町通426丁目
元町通427丁目
元町通428丁目
元町通429丁目
元町通430丁目
元町通431丁目
元町通432丁目
元町通433丁目
元町通434丁目
元町通435丁目
元町通436丁目
元町通437丁目
元町通438丁目
元町通439丁目
元町通440丁目
元町通441丁目
元町通442丁目
元町通443丁目
元町通444丁目
元町通445丁目
元町通446丁目
元町通447丁目
元町通448丁目
元町通449丁目
元町通450丁目
元町通451丁目
元町通452丁目
元町通453丁目
元町通454丁目
元町通455丁目
元町通456丁目
元町通457丁目
元町通458丁目
元町通459丁目
元町通460丁目
元町通461丁目
元町通462丁目
元町通463丁目
元町通464丁目
元町通465丁目
元町通466丁目
元町通467丁目
元町通468丁目
元町通469丁目
元町通470丁目
元町通471丁目
元町通472丁目
元町通473丁目
元町通474丁目
元町通475丁目
元町通476丁目
元町通477丁目
元町通478丁目
元町通479丁目
元町通480丁目
元町通481丁目
元町通482丁目
元町通483丁目
元町通484丁目
元町通485丁目
元町通486丁目
元町通487丁目
元町通488丁目
元町通489丁目
元町通490丁目
元町通491丁目
元町通492丁目
元町通493丁目
元町通494丁目
元町通495丁目
元町通496丁目
元町通497丁目
元町通498丁目
元町通499丁目
元町通500丁目
元町通501丁目
元町通502丁目
元町通503丁目
元町通504丁目
元町通505丁目
元町通506丁目
元町通507丁目
元町通508丁目
元町通509丁目
元町通510丁目
元町通511丁目
元町通512丁目
元町通513丁目
元町通514丁目
元町通515丁目
元町通516丁目
元町通517丁目
元町通518丁目
元町通519丁目
元町通520丁目
元町通521丁目
元町通522丁目
元町通523丁目
元町通524丁目
元町通525丁目
元町通526丁目
元町通527丁目
元町通528丁目
元町通529丁目
元町通530丁目
元町通531丁目
元町通532丁目
元町通533丁目
元町通534丁目
元町通535丁目
元町通536丁目
元町通537丁目
元町通538丁目
元町通539丁目
元町通540丁目
元町通541丁目
元町通542丁目
元町通543丁目
元町通544丁目
元町通545丁目
元町通546丁目
元町通547丁目
元町通548丁目
元町通549丁目
元町通550丁目
元町通551丁目
元町通552丁目
元町通553丁目
元町通554丁目
元町通555丁目
元町通556丁目
元町通557丁目
元町通558丁目
元町通559丁目
元町通560丁目
元町通561丁目
元町通562丁目
元町通563丁目
元町通564丁目
元町通565丁目
元町通566丁目
元町通567丁目
元町通568丁目
元町通569丁目
元町通570丁目
元町通571丁目
元町通572丁目
元町通573丁目
元町通574丁目
元町通575丁目
元町通576丁目
元町通577丁目
元町通578丁目
元町通579丁目
元町通580丁目
元町通581丁目
元町通582丁目
元町通583丁目
元町通584丁目
元町通585丁目
元町通586丁目
元町通587丁目
元町通588丁目
元町通589丁目
元町通590丁目
元町通591丁目
元町通592丁目
元町通593丁目
元町通594丁目
元町通595丁目
元町通596丁目
元町通597丁目
元町通598丁目
元町通599丁目
元町通600丁目
元町通601丁目
元町通602丁目
元町通603丁目
元町通604丁目
元町通605丁目
元町通606丁目
元町通607丁目
元町通608丁目
元町通609丁目
元町通610丁目
元町通611丁目
元町通612丁目
元町通613丁目
元町通614丁目
元町通615丁目
元町通616丁目
元町通617丁目
元町通618丁目
元町通619丁目
元町通620丁目
元町通621丁目
元町通622丁目
元町通623丁目
元町通624丁目
元町通625丁目
元町通626丁目
元町通627丁目
元町通628丁目
元町通629丁目
元町通630丁目
元町通631丁目
元町通632丁目
元町通633丁目
元町通634丁目
元町通635丁目
元町通636丁目
元町通637丁目
元町通638丁目
元町通639丁目
元町通640丁目
元町通641丁目
元町通642丁目
元町通643丁目
元町通644丁目
元町通645丁目
元町通646丁目
元町通647丁目
元町通648丁目
元町通649丁目
元町通650丁目
元町通651丁目
元町通652丁目
元町通653丁目
元町通654丁目
元町通655丁目
元町通656丁目
元町通657丁目
元町通658丁目
元町通659丁目
元町通660丁目
元町通661丁目
元町通662丁目
元町通663丁目
元町通664丁目
元町通665丁目
元町通666丁目
元町通667丁目
元町通668丁目
元町通669丁目
元町通670丁目
元町通671丁目
元町通672丁目
元町通673丁目
元町通674丁目
元町通675丁目
元町通676丁目
元町通677丁目
元町通678丁目
元町通679丁目
元町通680丁目
元町通681丁目
元町通682丁目
元町通683丁目
元町通684丁目
元町通685丁目
元町通686丁目
元町通687丁目
元町通688丁目
元町通689丁目
元町通690丁目
元町通691丁目
元町通692丁目
元町通693丁目
元町通694丁目
元町通695丁目
元町通696丁目
元町通697丁目
元町通698丁目
元町通699丁目
元町通700丁目
元町通701丁目
元町通702丁目
元町通703丁目
元町通704丁目
元町通705丁目
元町通706丁目
元町通707丁目
元町通708丁目
元町通709丁目
元町通710丁目
元町通711丁目
元町通712丁目
元町通713丁目
元町通714丁目
元町通715丁目
元町通716丁目
元町通717丁目
元町通718丁目
元町通719丁目
元町通720丁目
元町通721丁目
元町通722丁目
元町通723丁目
元町通724丁目
元町通725丁目
元町通726丁目
元町通727丁目
元町通728丁目
元町通729丁目
元町通730丁目
元町通731丁目
元町通732丁目
元町通733丁目
元町通734丁目
元町通735丁目
元町通736丁目
元町通737丁目
元町通738丁目
元町通739丁目
元町通740丁目
元町通741丁目
元町通742丁目
元町通743丁目
元町通744丁目
元町通745丁目
元町通746丁目
元町通747丁目
元町通748丁目
元町通749丁目
元町通750丁目
元町通751丁目
元町通752丁目
元町通753丁目
元町通754丁目
元町通755丁目
元町通756丁目
元町通757丁目
元町通758丁目
元町通759丁目
元町通760丁目
元町通761丁目
元町通762丁目
元町通763丁目
元町通764丁目
元町通765丁目
元町通766丁目
元町通767丁目
元町通768丁目
元町通769丁目
元町通770丁目
元町通771丁目
元町通772丁目
元町通773丁目
元町通774丁目
元町通775丁目
元町通776丁目
元町通777丁目
元町通778丁目
元町通779丁目
元町通780丁目
元町通781丁目
元町通782丁目
元町通783丁目
元町通784丁目
元町通785丁目
元町通786丁目
元町通787丁目
元町通788丁目
元町通789丁目
元町通790丁目
元町通791丁目
元町通792丁目
元町通793丁目
元町通794丁目
元町通795丁目
元町通796丁目
元町通797丁目
元町通798丁目
元町通799丁目
元町通800丁目
元町通801丁目
元町通802丁目
元町通803丁目
元町通804丁目
元町通805丁目
元町通806丁目
元町通807丁目
元町通808丁目
元町通809丁目
元町通810丁目
元町通811丁目
元町通812丁目
元町通813丁目
元町通814丁目
元町通815丁目
元町通816丁目
元町通817丁目
元町通818丁目
元町通819丁目
元町通820丁目
元町通821丁目
元町通822丁目
元町通823丁目
元町通824丁目
元町通825丁目
元町通826丁目
元町通827丁目
元町通828丁目
元町通829丁目
元町通830丁目
元町通831丁目
元町通832丁目
元町通833丁目
元町通834丁目
元町通835丁目
元町通836丁目
元町通837丁目
元町通838丁目
元町通839丁目
元町通840丁目
元町通841丁目
元町通842丁目
元町通843丁目
元町通844丁目
元町通845丁目
元町通846丁目
元町通847丁目
元町通848丁目
元町通849丁目
元町通850丁目
元町通851丁目
元町通852丁目
元町通853丁目
元町通854丁目
元町通855丁目
元町通856丁目
元町通857丁目
元町通858丁目
元町通859丁目
元町通860丁目
元町通861丁目
元町通862丁目
元町通863丁目
元町通864丁目
元町通865丁目
元町通866丁目
元町通867丁目
元町通868丁目
元町通869丁目
元町通870丁目
元町通871丁目
元町通872丁目
元町通873丁目
元町通874丁目
元町通875丁目
元町通876丁目
元町通877丁目
元町通878丁目
元町通879丁目
元町通880丁目
元町通881丁目
元町通882丁目
元町通883丁目
元町通884丁目
元町通885丁目
元町通886丁目
元町通887丁目
元町通888丁目
元町通889丁目
元町通890丁目
元町通891丁目
元町通892丁目
元町通893丁目
元町通894丁目
元町通895丁目
元町通896丁目
元町通897丁目
元町通898丁目
元町通899丁目
元町通900丁目
元町通901丁目
元町通902丁目
元町通903丁目
元町通904丁目
元町通905丁目
元町通906丁目
元町通907丁目
元町通908丁目
元町通909丁目
元町通910丁目
元町通911丁目
元町通912丁目
元町通913丁目
元町通914丁目
元町通915丁目
元町通916丁目
元町通917丁目
元町通918丁目
元町通919丁目
元町通920丁目
元町通921丁目
元町通922丁目
元町通923丁目
元町通924丁目
元町通925丁目
元町通926丁目
元町通927丁目
元町通928丁目
元町通929丁目
元町通930丁目
元町通931丁目
元町通932丁目
元町通933丁目
元町通934丁目
元町通935丁目
元町通936丁目
元町通937丁目
元町通938丁目
元町通939丁目
元町通940丁目
元町通941丁目
元町通942丁目
元町通943丁目
元町通944丁目
元町通945丁目
元町通946丁目
元町通947丁目
元町通948丁目
元町通949丁目
元町通950丁目
元町通951丁目
元町通952丁目
元町通953丁目
元町通954丁目
元町通955丁目
元町通956丁目
元町通957丁目
元町通958丁目
元町通959丁目
元町通960丁目
元町通961丁目
元町通962丁目
元町通963丁目
元町通964丁目
元町通965丁目
元町通966丁目
元町通967丁目
元町通968丁目
元町通969丁目
元町通970丁目
元町通971丁目
元町通972丁目
元町通973丁目
元町通974丁目
元町通975丁目
元町通976丁目
元町通977丁目
元町通978丁目
元町通979丁目
元町通980丁目
元町通981丁目
元町通982丁目
元町通983丁目
元町通984丁目
元町通985丁目
元町通986丁目
元町通987丁目
元町通988丁目
元町通989丁目
元町通990丁目
元町通991丁目
元町通992丁目
元町通993丁目
元町通994丁目
元町通995丁目
元町通996丁目
元町通997丁目
元町通998丁目
元町通999丁目
元町通1000丁目
元町通1001丁目
元町通1002丁目
元町通1003丁目
元町通1004丁目
元町通1005丁目
元町通1006丁目
元町通1007丁目
元町通1008丁目
元町通1009丁目
元町通1010丁目
元町通1011丁目
元町通1012丁目
元町通1013丁目
元町通1014丁目
元町通1015丁目
元町通1016丁目
元町通1017丁目
元町通1018丁目
元町通1019丁目
元町通1020丁目
元町通1021丁目
元町通1022丁目
元町通1023丁目
元町通1024丁目
元町通1025丁目<br